

第 1 回 利賀ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場 議事要旨

平成 22 年 11 月 10 日（水）10:45～12:00

砺波市役所 3 階小ホール

【出席者】

富山県知事、高岡市長、砺波市長、小矢部市長、南砺市長、射水市長

【設立経緯、規約】

○規約については案のとおり承認された。

【主な意見】

○庄川では、これまで度々洪水被害が発生しており、水害を身近に感じている。いかに洪水被害を防ぐかという議論をして頂きたい。

○過去に開催された事業評価監視委員会や庄川水系河川整備計画策定時において、色々な代替案を比較検討され、利賀ダムは必要とされた。こうした経過をしっかりとふまえた議論が大切である。

○タウンミーティングなどでいろいろな方の話を聞いてきたが、利賀ダムに反対との声は聞こえてこない。むしろ住民からは早くやってほしいと言われている。

○検討にあたっては、河川整備計画の目標である 4,200m³/s で行うとのことだが、庄川では河川整備基本方針に定められた 150 年に 1 回の洪水（6,500m³/s）にも耐えられることを目標としてこれまで整備が進められてきており、沿川住民の安全のため 150 年に 1 回という治水安全度が下がることのないようお願いしたい。

- 砺波市の歴史は水との戦いの歴史であり、水害に対する恐怖心がある。豪雨の場合に庄川になるべく水が多く流れないようにすることが必要である。
- 南砺市利賀村にとっては緊急医療の観点からも国道４７１号バイパスは人命を助けるためにも非常に重要である。
- 庄川は水量の変化がありすぎる。内水面漁協からは一定量の水を常時流していただきたいとの要望もあり、環境の面から大事だと思っている。
- 交通の利便性が良く、企業の立地の可能性が高く、工業用水の利用価値が高いため、将来に渡り重要なダムであると思われる。

- 近年ゲリラ的集中豪雨が発生し、山の崩壊や流木が河川に流下し災害が発生しており、色々な手法を検討されると思うが、最高の効果を発揮するような対策を選んでほしい。これがダムだと思っている。
- 水没地域の住民の苦悩や決断を見てきた。納得して頂きながら進めてきた。上流住民の１００％はダムを完成してほしいとの思いである。命の道である４７１号バイパス（工事用道路）の建設には大きな期待がある。
- これまでの住民の思いを受け止めていただき、また意見を良く聞いていただき、ダム及び工事用道路を完成させて頂きたい。

- 庄川平野部では直線的にかつ短期間に水が押し寄せる。下流域では市街地が堤防に接しており、住民は洪水時に大変不安な思いをしてきた。水害は想定ではなく現実的な問題である。
- 下流の堤防改修が進められているが、安全の確保については、ダムによる洪水調節が大前提になっているため、利賀ダム建設は必要である。

○庄川の扇頂部での破堤を危惧している。利賀ダムは浸水被害等々の歴史を踏まえて計画されたものであり、そのことを勘案してほしい。

○ダムの効果はすぐに発揮するので、それについても評価をしてほしい。

○射水市は庄川の最下流部に位置しており、庄川の恵みを受け発展をしてきた一方で水害による被害を受けてきた。水害に対する怖さを肌身で感じており、対策を図っていくことは重要であると思っている。

○150年に1回の洪水は今年、来年起こるかもしれない。行政の責務としてあらゆる対策を図るべきである。

○利賀ダムの建設は総合的な検討を踏まえ決定されたものと認識しており、沿川の生命と財産を守らなければならない行政としては、利賀ダムの建設は必要な事業と思っている。

○利賀ダムを見直すのであれば、洪水調整機能の代替として、十分でしっかりした手立てが必要。それが示されなければ、利賀ダム事業を推進しないと、地域の安全・安心は守ることはできない。

以 上